

日本香辛料研究会の沿革

1984年8月20日～24日、韓国ソウル(大学)において第5回 Asian Symposium on Medicinal Plants and Spices (ASOMPS) が開催された。このシンポジウムに日本からの招聘演者として出席し、講演した京都大学農学部の岩井和夫教授(当時)と大阪市立大学生活科学部の中谷延二助教授(当時)は、このシンポジウムに大いに刺激を受け、我が国においても ASOMPS のようなシンポジウムかセミナーを開催できないものか話し合った。

これが契機となって、岩井和夫教授は昭和60年度(1985年)の(財)日本農芸化学会鈴木奨学金藪田基金の助成を得、同年11月16日京都大学楽友会館において「香辛料研究の現状と展望」と題する研究小集会(いわゆる藪田セミナー)を開催した。

このセミナーの後、このような領域の研究会は我が国には未だ無かったので、学会・業界の方々の御意見、情報などを参考にして、香辛料の特性並びにその機能の系統的・統合的解明、香辛料の有用機能や有用成分の分析法の確立、新しい利用面の開発などについて討議し、情報交換する場として、岩井教授を会長とする日本香辛料研究会(The Japan Society for Spice Research)が設立された。そして、1986年11月22日に京都大学楽友会館において第1回日本香辛料研究会が催された。その後、毎年、日本の各地で年に1回学術講演会を開催している。2013年4月1日に一般社団法人日本香辛料研究会(The Japan Society for Spice and Herb Research)となり、今日に至る。

その間の会長は、1986年から2000年3月(第1回から第14回研究会)まで、岩井和夫教授(京都大学名誉教授)、2000年から2021年7月までは伏木亨教授(甲子園大学 栄養学部、京都大学名誉教授)である。2021年から森光康次郎教授(お茶の水女子大学 生活科学部)である。